

普及活動情勢報告（平成31年2月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

1 kgでも食欲に収穫量を増やそう！・・・三原村農業公社ユズ剪定講習会・・・



1月25日、三原村農業公社のユズ園で剪定講習を行い、研修生を含む15名が参加しました。

農業改良普及課は、当初目標の収量が確保できていないため、2本主枝樹形から、防除・収穫の省力化も引き続き考慮した、やや変則的な樹形に変えて収穫量を増やすよう指導しました。村から委託されたアドバイザーも参加し、大規模経営での作業全体の組み立ての考え方を示されました。参加者は収穫量を増やすために剪定量を減らすことは理解しました。

園地によって土壌管理から改めなければならない弱勢園や枝数制限が必要な日照不良園もあり、農業改良普及課は今後も園地に応じた指導を行います。

ナスでの炭酸ガス施用による増収効果を実感・・・JA高知はた大月支所施設園芸部・・・



2月12日、大月町の炭酸ガス発生機導入ほ場で生産者9名が参加し、環境制御技術の現地検討会を開催しました。

増収効果については、生育調査結果及び炭酸ガス未導入年度の出荷量との比較により確認し、園主から冬期の芽吹きが良くなったとの話もありました。一方で、整枝作業が増えることで他の作業の手が回らなくなることも想定しないといけないとの指摘もありました。

大月町のナスでは炭酸ガス発生機導入による増収実績がなく、本園芸年度でデータを収集し、成功事例として周知できるよう取り組んでいきます。

集落営農組織設立へ ～10年20年先も集落を守りたい～・・・黒潮町奥湊川営農組合・・・



奥湊川地区では平成21年11月より、集落営農について協議を始め、約10年の年月を経て、2月18日、黒潮町奥湊川憩いの家にて、「奥湊川営農組合」を設立しました。

設立総会では、組合員7名・地域住民・関係機関の参加があり、規約・規程・役員の承認・事業計画・収支予算などについて協議及び承認されました。

今後は、平成32年からの本格稼働に向けて、機械や作物の導入について話し合いをする計画となっています。

農業改良普及課では、継続して組織の運営や機械の計画的な導入等に向けて支援を行います。

集落営農法人の経営安定に向けて！ ・ ・ ・ 幡多地域集落営農法人連絡協議会の開催 ・ ・ ・



1月31日、中村合同庁舎3階会議室において、平成30年度第2回幡多地域集落営農法人連絡協議会が開催され、幡多地域の集落営農法人10組織15名と関係機関合わせて30名が参加しました。

協議会では、会計期末の決算に向けた注意点や、定款の変更などに伴う各機関への届出などの情報提供や今後の法人間の連携の推進についての意見交換が行われました。参加した法人からは決算処理の具体的な内容などの質問が出されました。

農業改良普及課では、今後も法人の経営安定に向け、連絡協議会を開催し、法人の活動を支援していきます。

**（公財）三原村農業公社でスマート農業をやるぞ！
・ ・ ・ スマート農業加速化実証プロジェクトへの応募支援 ・ ・ ・**



事業応募を協議する関係者

三原村農業公社は、三原村内に散在する 100 筆以上のユズ園地を管理し、労務管理や園地管理の効率が低下していました。そこで、農業改良普及課は、ICT などの最新機器を用いたスマート農業を実証する「スマート農業加速化実証プロジェクト」事業を紹介し、同公社を中心に、村や県内大学、機械メーカーなどで構成するコンソーシアムの構築や応募書類の作成を支援し、2月1日に応募することができました。

農業改良普及課は、同実証プロジェクトの採択の可否にかかわらず、同公社の省力化、収量向上に向けて支援していきます。

測定データを比べて活用してみよう！ ・ ・ ・ 土佐清水キュウリ環境制御勉強会 ・ ・ ・



どんな温度管理しよう？

2月12日、JA高知県三崎支所でキュウリの勉強会を開催し、生産者6名が参加しました。測定機器を導入している生産者4戸の実際の環境データを比べ、測定データの見方やよりよいハウス内環境に繋げるための管理について指導しました。

生産者からは、実際の測定データを比べ「もう少し温度上げようかな」と管理を見直す声や「うちはこうやって湿度を抜いちょう」といった生産者同士でのアドバイスや意見交換が活発に行われました。

農業改良普及課は、今後もこのような意見交換の場を設け、環境制御技術の理解を深め、生産者の技術向上を支援していきます。